

「フェイクを見極める」

開催地：長崎

グループ： 1班

2021.8.21

フェイクを見極める

フェイクについて

誰でも持っている気持ちが形として出たものがフェイクニュース

- いたずら心により、悪気がなくても成り行きでフェイクニュースになることがある
「これを書き込んだらどんな反応があるのかな？」という好奇心
- 社会への反抗心などのネガティブの感情からフェイクが生まれる
- 自分にも相手にも良くないものがフェイク
その結果として、誰でも被害者・加害者になりえる
- 学校でも取り上げられ、身近な話題でもある

有用なものを見逃さないために

- ネットの有効性

 - 便利である

- 情報の性質を表すもの、根拠とは
真偽を確かめるために判断材料としているもの

 - 例) 5W1H

 - twitterの認証マークなどのサービスごとの公式マーク
 - 出典元の過去投稿を確認する

フェイクを見極めネットを活用するには

自分自身がネットがどのような世界なのかを理解したうえで情報を活用する



拡散性・匿名性

フィルターをかける

情報を鵜呑みにしない

身近なところにフェイクニュースがあることを理解したうえで情報を活用

↓ これを前提として

自分の知っている情報を小中学生にも伝える必要がある。

その方法として、「サイバーセキュリティボランティア」の活動

終 了

メモ

1 フェイクについて

- 悪意のあるものはフェイクと認識している
- 自分にも相手にも良くないものがフェイク
→冗談のつもりでも相手には、
結果、自分の評価も下げる。
- フェイクニュースを調べて最初に出てきたのがライオンのニュース。
行為者が逮捕されたし、動物園は関係ないのに被害を受けた。
誰でも被害者になりえるのがフェイクニュース。
- 学校でも取り上げられ、身近な話題でもある。
社会への反抗心や悪ふざけ。
誰でも持っている気持ちが形として出たものがフェイクニュース

悪意の有無

- ・ 相手を陥れるのはダメ、人を喜ばせるためのエンタメ的なものはあり。
- ・ フェイクニュースのすべてが悪意ではないと思う。
善意で考えたことが間違っていたということもあると思う。
拡散についても同じことがいえると思う。
- ・ いたずら心というのは、悪気がなくても成り行きでフェイクニュースになることもあるというものであり、これは許容範囲。
悪意があるのかを見極めるものがあれば良いと思う。

○いたずら心

「これを書き込んだらどんな反応があるのかな？」という気持ち。

2 有用なものを見逃さないために

- ネットの有効性は便利だから。人に聞くより、携帯などで簡単に情報を得られる。人に聞くと、1人の知識だけど、ネットは様々な情報を見つけられる。どうフェイクを見抜くか。一番は自分の目で見極める。難しい場合は、1つの意見にとらわれず、様々な意見を取り入れたうえで、自分の意見を作る。
- 有効性は便利。ネットに依存する人が多いのは、デメリットよりメリットのほうが大きいから。
 - フェイクニュースを見抜くには、内容があいまいなものは疑う。1つのサイトではなく、他サイトやほかのメディアからも情報を取る。
 - フェイクを拡散してしまった場合、間違いと分かった時点で訂正する。フェイクの拡散を止めることも必要。

- ・ 便利。根付いてしまったのは便利すぎるから。
 メリットとデメリットのバランスがうまくいっていない。メリットが大きく見えるから広がった。フェイクを見極めるのには力が必要
 見抜くためには、物事を前に進めるもの？後ろに退けるもの？
 前に進めるものかを見極める
- ・ 今はもうメリット、デメリットを考える段階ではない。
 見極めるには、他サイトや新聞、いろんな媒体を通して、多くのニュースを見るという経験を積む。
 5W1Hの根拠を見極める。

情報の性質を表すもの、根拠とは 真偽を確かめるために判断材料としているもの

- ・ いつ、どこで、誰が。情報元（出典元）を探るのが一番いい判断材料では？
- ・ 出典元が過去に発信した情報を確認。求めている情報自体も大切だが、過去の情報を確認することも見極めることに有効。
- ・ twitterなど、一般の人が出している情報よりは、公的機関が出している情報が信用ができる。 発信源がどこかは重要。

3 フェイクを見極めネットを活用するには

- ・ 僕たち高校生が、活用方法を周りに伝えていくべき。

特に小学生やその保護者などに伝えるべき。

アルバイト先で小学生にかかわることがあるが、低学年からネットに関わっている。

自分自身がネットに詳しくいる必要がある。

- ・ 一つの情報をうのみにしない。

発信元を探る 過去の発言、フェイクばかりでないか

発信元の信用性 twitterの認証マーク等

- ・サイバーセキュリティボランティアでの題材の1つとして取り上げている。伝えていることは、

 - ネットは拡散性がある。世界のだれも見ることができる。

 - 匿名性がある

 - 投稿のイイネが多いから正しい情報ではない。

- ・小学校中学年でほぼ全員がスマホ等を使っている。からこそ、高校生が伝える必要がある。

- ・身近なところにフェイクニュースがあることを理解したうえで情報を活用する。

- ・情報を得ることは情報を与えることに比べエネルギーを使うということ。若い人に認識してもらう必要がある。

 - フィルターをかける、頭を使う。

 - 有効性の最大化＝エネルギーをかけないと達成できない。